

もっと知りたい 福生市の史跡と文化財（3）

ガイドマップ「史跡と文化財」では取り上げていませんが、より知っていただきたい文化財について紹介しています。

かたくらあとち たかさき じへいおう ひ 片倉跡地と高崎治平翁の碑

養蚕業と製糸工場の興亡

福生は明治時代から大正時代にかけて、養蚕業が盛んな地域でした。

養蚕の歴史は弥生時代にまでさかのぼることが出来ると言われていますが、江戸末期から生糸の品質が飛躍的に向上し、茶と並ぶ日本の主力輸出品目に成長します。そして、この品質向上のための様々な養蚕技術を福生の地に導入したのが「高崎治平」です。

また、それまで手作業で行われていた製糸業は、生産量とさらなる品質の向上を目的として、器械を導入した近代的な製糸工場へとその生産形態を転換させていきます。明治政府が殖産興業として創設した富岡製糸工場が有名ですが、福生にも大規模な製糸工場である「森田製糸所」が存在しました。

森田製糸から片倉製糸へ

明治6年（1873）、現在片倉跡地と呼ばれている福生院ふくしょういんの北側に広がる空き地（観光ガイドマップF-3）に「森田製糸所」が創業されました。

東京で最初の製糸工場で、当初は従業員 50 人程度の規模でしたが、順調に業績を伸ばして明治35年（1902）には従業員も400人となり、多摩地区屈指の大工場に発展を遂げます。

しかしながら大正時代に入ると生糸相場の大暴落、続いて関東大震災による経済的打撃にさらされ、昭和2年（1927）にはついに倒産してしまいます。

その後、日本最大の製糸会社「片倉製糸」が事業を引き継ぐこととなりますが、第二次世界大戦中には製糸業の衰退と軍需に伴い他業種に転換、これにより福生の製糸業は終焉を迎えることとなります。



森田製糸全景（大正時代）



片倉跡地（平成3年）

もっと知りたい 福生市の史跡と文化財（3）

ガイドマップ「史跡と文化財」では取り上げていませんが、より知っていただきたい文化財について紹介しています。

たかさきしへい 高崎治平

明治 10 年代、日本の養蚕業は生糸きいとの輸出が増加したことで、全国的に発展していきます。江戸末期の安政 2 年（1855）、福生村に生まれた高崎治平は、福生の経済発展には養蚕業の振興しかないと考え、当時養蚕業の先進地域であった長野や群馬などを視察し、その技術を取り入れ、さらには養種の改良にも取り組んでいきます。福生村に「共盛組きょうせいぐみ」という組織を作り、改良と研究を重ねた自家製造の新しい蚕種を希望者に無料配布して飼育させ、また福生の多摩川沿岸の荒地を開墾して桑園を造成しました。

そして大正 15 年（1926）には、養蚕業改良を目的として明治 23 年（1890）に創設された「成進社せいしんしゃ」の社長となり、西多摩の養蚕業発展に尽力します。高崎のこれまでの功績に対し、緑綬褒章が授与されたのは明治 43 年（1910）12 月のことです。

その後、昭和 11 年（1936）には高崎治平の偉業を刻み、業績を称える記念碑が福生神明社北側（観光ガイドマップ C-3）に建てられました。



高崎治平



高崎治平翁頌徳碑
(福生市登録有形文化財)



成進社高崎蚕業講習所（大正期）

発行・問合せ 福生市郷土資料室（042-530-1120）
福生市熊川 850-1（中央図書館内） 開館時間 10:00~17:00
※月曜休館（月曜日が祝日の場合は翌火曜日）
<http://www.museum.fussa.tokyo.jp/>